

令和7年度 江戸川区立西一之江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考えずんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子			目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	” みんなの笑顔があふれる学校” 児童にとって、夢をもち、心を弾ませて通う学校 教職員にとって働く喜びを感じ、誇りに思うことができる学校			
前年度までの本校の現状	成果	・多くの児童が、学校での学習に前向きに取り組み、自分の力を伸ばそうとする姿が見られた。 ・一人一台の学習用タブレットを活用した授業が学校全体に広まってきて、児童も活用力がついてきた。 ・学校行事を精選、工夫して、簡略化して行うことができた。			課題	・学校全体の児童の学力を向上させていく必要がある。（特に算数科） ・学校行事の内容や方法に対して、保護者に理解していただける環境をより構築する必要がある。		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・教師自身の「ファシリテーション」の意識を高め、主体的、対話的で深い学びのある学習を定着させる授業の展開	・定着度調査や江戸川区学力調査においてAB層50%以上	70%	80%	B	・児童同士が対話ができるように一人一人が考えをもてるような授業を組み立てる。 ・ファシリテーションの意識の高め方を知る。 ・定着度調査の結果を受けて、AB層が増えるように、時間を作って反復練習を行っている。	B	・定着度調査等の結果による。	B	・江戸川区学力状況調査について、第3学年以上の学年でAB層が少なくとも40%を超えているが、目標を達成したのは6割にとどまった。多くの学年でA層の割合が向上している。 ・定着度調査等の結果から各学年での取組と全校での取組を検討している。	B	・子供たちのすすくでの普段の様子から、自分の意見をもって会話をする児童が見受けられる。	・校内研究における各教科等の継続的な研究の実施（研究推進部） ・継続的な学習習慣の形成（教務部・学力向上部）
		・江戸川っ子study weekの取り組み内容を学校と家庭で共有 ・3年生での辞書引き学習の実施	・年3回1週間程度、全ての児童がドリルパークを実施 ・3年生全員が国語辞典の引き方を習得	80%	90%	B	・ドリルパークは江戸川っ子への週間を受けて、家庭学習でも行っている。 ・家庭学習に加え朝学習でも行った。 ・study week以外でもドリルパークに取り組ませている。 ・2学期までに2回タブレットを使った取り組みを実施。 ・ドリルパークの学習を毎日実施はできなかったが、オクリンクプラスを活用した学習を行うことができた。 ・3年生は国語辞典の引き方を習得している児童がほとんどである。積極的に使用するよう促していく。 ・辞書引き学習の周知をするるとともに、3学年以上が活用できるようにしていく。	B	・3年生全員の国語辞典の引き方習得度による。 ・タブレットが普及したが、辞書引き学習の大切さも学び続けてほしい。	A	・年間3回、1週間程度の期間でドリルパークを実施した。 ・ミライシードの活用を積極的に行い、学習内容に応じて学習用具を教員が選択しながら触れる機会を確保する指導を行った。 ・3年生以上の国語科「読むこと」の単元において辞書引きを実施した。辞書引きについてもおおそすべての児童が技能として習得しているといえる。	A	・ドリルパークを、江戸川っ子study week週間にて、実施している。 ・全国学力・学習状況調査において、国語のAB層の割合は昨年比ほぼ同じであるが、算数ではAB層割合が大きく向上した。 ・3年生での辞書引きは、概ね習得できている。	・【前掲】校内研究における各教科等の継続的な研究の実施（研究推進部） ・【前掲】継続的な学習習慣の形成（教務部・学力向上部）

上	○読書科の更なる充実	・読書科における探究的な学習の充実 ・図書室整美活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施 ・朝読書の実施	・自ら課題を見出し、図鑑や資料を使って探求する活動を年3回以上実施 ・教員、保護者、図書委員会による年8回の読み聞かせ週間の実施 ・週1～2回の朝読書の実施による読書意欲の向上	70%	80%	B	・読み聞かせや朝読書は行っているが、探究活動はこれから取り組むことになる。 ・児童が読み聞かせを興味をもって楽しみに聞いている。 ・校内研究の国語科の単元に絡めて、探究活動を進めている。（2学期） ・読み聞かせを計画通りに行っている。 ・読書意欲が向上するように物語の良さや資料の有効性を伝える等工夫する必要がある。 ・読書科における本を使った学習は2学期までに2回実施。 ・朝読書の日に集会があるなどして、時間が確保できないときがあった。 ・実施するのに必要十分な時数が不足している。 ・図書室を確実に使用できるように時間割を組んでいく。 ・読書活動の充実を求める。 ・朝の集会などで読書の時間がつぶれないよう確保していく。	B	・読み聞かせを、「本は友だち隊」「上級生」等、頻繁に実施している。 ・図書室の整備、工夫した模様替え等も実施され、読書意欲の向上を図っている。 ・読書の機会をさらに増やしてほしい。	B	・読書科の学習として、年間3回以上探究する活動を実施した。その中で、情報の収集方法や思考の整理方法、表現方法など技能面の指導を系統立てて行うことが課題である。 ・読み聞かせ活動については年間計画通り、保護者・教員・高学年が担当して読み聞かせを行った。 ・朝の時間の読書活動は計画上は計上したが、具体的な活動について次年度計画立てて実施できるようにする。	A	・図書室は、常備整備、管理され、利用しやすい環境が継続されている。 ・図書室の装飾替えも、計画的に実施されている。 ・ボランティアの方の読み聞かせ、高学年による読み聞かせ等、読み聞かせの活動を積極的に実施している。	・継続的に本に親しみ、図書情報を適切に活用できる取組の推進（図書読書部）
体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・「体力テストがんばろう月間」の実施	・体力テスト全種目において、昨年度の記録の平均値を上回る	90%	90%	A	・全体的に去年の記録より上回ることができている。 ・昨年度より、平均値をこえる種目が多くなっているように見られる。 ・学年別練習会では楽しんで取り組むことができた。しかし、外遊びの励行や練習場所の設置など、対策が必要である。	A	・体育科が学習発表会において、練習も含めしっかり実施され、また「体力テストがんばろう月間」等、運動意欲の向上を図っており、体力向上が見込まれる。	A	・目標としていた「全種目で平均を上回ること」はできなかったが、どの種目も目標に近づいている。 ・来年度の引き続き、記録を伸ばしたい重点種目を決め学校全体で練習できる環境づくりを行う。	A	・酷暑により運動・水泳の制限が求められる中で、東京都児童体力・運動能力等調査では、A～C層70%以上、A層10%以上を超える学年が昨年比とても増えた。	・体力テスト前に実施する「体力テストがんばろう月間」の充実（体育部）
	・運動習慣の定着化	・江戸川っ子なわとびチャレンジウィークにおける業間運動の実施	・なわ跳びを楽しんで実施する児童80%以上	80%	80%	B	・チャレンジウィークはまだ参加していないが、7月よりなわ跳び運動を体育で行っていて、休み時間なども自主的に行っている。 ・できる技を楽しんで取り組むことができている。 ・なわとびに楽しめる工夫が必要である。また、場を確保する必要もある。 ・暑さで外遊びをする児童が少なく、運動をする機会が減っている。 ・猛暑の中であるが運動できる休み時間を確保したい。 ・さらにすすんで外遊びに行くように徹底したい。	B	・より多くの運動に取り組めるようにしていくと良い。 ・児童数に見合った校庭の広さがない中、全校児童が少しでもなわ跳びに取り組めるように、努力している。	B	・なわとびチャレンジウィークを実施し、体力向上に取り組む児童が多かった。休み時間でもすすんで取り組む児童が多く見られた。	B	・なわとびを楽しんで行うよう体育等でも指導し、取り組んでいる。 ・技や連続で飛べる回数等、子供たちが興味と競争心をもってくれるとよい。 ・酷暑期、厳寒期は体育館の有効活用により体を動かすように促進したい。	・なわとびチャレンジウィークの充実（体育部） ・体育館を活用した年間を通した運動機会の確保（体育部）
共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	80%	90%	B	・児童への啓発がまだ不十分である。様々な教育活動を通して指導していく。 ・教室での指導と通級での指導が一貫性をもって行うことができるよう、打ち合わせていく。 ・授業におけるユニバーサルデザインの共通理解を教員間で図り、インクルーシブ教育を実践できるようにしていく。	A	・「さくらルーム」の設置及び特別支援教育の広報も実施されており、理解向上を図っている。 ・学校生活の中で、お互いを認め合い、助け合い意識が身に付いている。 ・少しでも児童一人一人の個性を大切にしようとしている。	A	・巡回指導教室「さくらルーム」の内容について、巡回指導の先生が紹介集会を実施するなど、周知を図った。今後も継続していく。 ・ユニバーサルデザインは教員間での継続的な指導方法の検討・充実を図っていく。	A	・特別支援教室「さくらルーム」が設置され、特別支援教育の後方も実施され、児童及び保護者への理解に努力されている。	・エンカレッジルームの活用拡充（特別支援教育部・生活指導部） ・ユニバーサルデザインに基づく指導方法の理解促進（特別教育支援部・研究推進部）

不登校・いじめ対応の充実	・不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートの実施 ・相手を意識し、人権意識を高める取り組みの実施 ・児童一人一人の実態に合わせた生活指導の充実と教職員の情報共有	・年3回一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止 ・毎月第4週に「なかよし週間」として取り組む ・全職員による児童の情報共有機会を週2回、職員夕会で設ける	90%	90%	A	・計画通り実施している。 ・不登校対策の実施について登校支援や個別対応などを行っている。 ・なかよし週間を実施することで、児童の心が穏やかになっている部分がある。 ・いじめ対策委員会や職員夕会などで、全職員が児童の情報を共有して解決につながっている。	A	・いじめが起きた時の校内体制が整ってきている。さらなる充実を望む。	A	・計画通り、年間3回のアンケート調査だけでなく、普段の児童の観察を行っている。 ・「なかよし週間」での取組から、相手を尊重する姿勢が育ってきているといえる。 ・いじめ対策委員会や職員夕会での情報共有により、組織的に対応できる体制が整備された。	A	・「いじめ」の情報もなく、子供達の表情も明るく、元気に活動している児童が多く見られる。	・継続した児童観察の徹底（いじめ対策委員会・生活指導部） ・指導内容の共有（生活指導部） ・教職員間での指導内容の統一（生活指導部）
	・教育相談の強化	・SCによる5年生全員の面談実施	・一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止	80%	90%	B	・SCとのカウンセリングの結果を担任から学年への情報共有をさらに徹底したい。 ・SCと教員間で密に連携、情報共有している。	A	・「いじめ」「不登校」についての未然防止に向けた取り組みを十分に行っている。	A	・SCと教職員間で連携・情報共有を継続して行っていく。	A	・「いじめ」「不登校」の未然防止に向けた取組を十分に行っている。	・SC・巡回心理士等からの研修の充実と児童の見取り方の資質向上（特別支援教育部）
	・L-Gateの活用	・児童の心身状態を教師がこまめに把握する機会の実施	・週1回以上実施し、一人一人の声にこまめに耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止	90%	90%	A	・毎週行っており、オレンジ・赤色の場合は声を掛け、話を個別に行っている。赤の児童に理由を聞いたり、様子を見たりすることで、不登校を未然に防いでいる。 ・L-Gateを通して、気になる回答の児童に聞き取りを行い、解決に努めた。 ・児童理解につなげている。 ・今後大きな行事終了後などL-Gateをさらに活用し、見取りの時間を増やし指導へ生かす。	A	・本年度より新たに始まった取り組みであるが、児童指導に有効に使われていると思われる。	A	・L-Gateの活用により、児童の見取りが充実してきた。今後指導や支援の活用方法についてさらに充実させていく。	A	・児童への聞き取り等、丁寧な対応に取り組み成果を得ていると思う。	・L-Gateの活用方法の充実（生活指導部）
地域学校社会に実現された	・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	・実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載	・毎週ホームページを更新し、校内の情報を保護者や地域に伝える。	50%	70%	C	・日光移動教室の毎日のホームページでの掲載があり、保護者に届くとも良かったと思う。 ・毎週実施は難しい。滞っている部分がある。 ・更新頻度を上げるには、分掌のあり方を変える必要がある。	C	・学校ホームページに必要な情報が掲載されている。学校日記に日々の児童の様子がさらに掲載されることを望む。	B	・できる限り学校ホームページの更新に努めたが、まだ不十分である。分掌の在り方を含め、校内体制を整備していく。	B	・学校ホームページは、学校日記等、遅延なく情報が更新されている。	・担当者の増員及び更新計画の再検討（情報部） ・学校ホームページの常時掲載内容の再検討（情報部）
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載	・全項目でのB評価以上	70%	70%	B	・ホームページへの掲載だけでなく、学校評議員会で学校関係者評価への協力を依頼している。	A	・いつも分かりやすく情報を伝えていると思われる。 ・いつも学校に訪問しやすい雰囲気である。	B	・学校評議員会で学校への要望や評価をいただき、教育活動の改善に努めている。	B	・学校評議員会では、忌憚なく意見が言える雰囲気である。	・学校評議員会での意見・共有アンケート調査の結果も踏まえた次年度教育計画の立案（教務部）
	・鼓笛隊の取り組み	・中央地域まつりや一之江ふるさと祭りへの参加 ・校内での鼓笛隊発表の機会	・6年生児童の自己評価肯定的意見80%以上	80%	80%	B	・6年生の児童は、学習やほかの行事の準備でとても忙しい中、意欲的に練習に取り組み、中央地域祭りでの演奏は中止になったものの、代替演奏で堂々とした姿を披露できた。地域からの支持も高く本校の伝統行事として続けていきたいが、授業時数削減の流れの中、練習時間を確保することが課題である。また、地域のまつりは休日に行われるため、参加できない児童が増えている現状もある。	A	・中央地域祭りでの演奏は中止となったが、体育科学習発表会後に公開演奏会があった。鼓笛隊は短い期間での練習の中、とても立派だった。	B	・学校の特色ある活動として位置付けており、児童の満足度も高い。一方で、教育課程内の時数の制限、酷暑時期の練習環境など持続可能な活動とするための課題もあるため、検討を継続していく必要がある。	A	・「中央地域まつり」に続き、「中央・一之江ふるさとまつり」でも雨予報により中止となり、子供たちにとっては気の毒な思いを抱く。鼓笛隊の練習や体育科学習発表会では、立派な演奏を拝見できた。	・学校の特色ある活動として、持続可能な活動方法の検討を継続（第6学年・教務部）
特色の教育の	<俳句作り> ・豊かな感性と表現力の伸長 ・日本文化理解	・校内及び地域施設への掲示 ・各種コンクールへの参加	・季節ごとに年4回全児童による取り組み	90%	90%	A	・季節ごとに俳句作りを予定通り実施している。 ・児童にとっていろいろな言葉を考えたり季節を感じとったりするとてもよい機会となっている。	A	・継続的に実施され、作品の掲示・掲載により、子供たちの創作意欲が向上される。 ・豊かな人間性の形成に貢献している。 ・学校でも特に力を入れているので引き続き継続していったほしい。	A	・季節ごとに俳句を作成した。事業を通して、語彙の拡張や言語感覚の涵養に務めた。 ・クラス代表となった句は地域に掲示していただいている。地域にも見守られていることが児童にも自信になっている。	A	・季節ごとの俳句づくりは、子供たちの感性を養い伸ばしていくのに有効と思う。子供視点の良い俳句が多々あり、継続してほしい。	・次年度も同様に継続実施する（俳句部会）

の 展 開	＜カブトムシ小屋＞ ・環境教育(E S D)・S D G’ sの推進 ・生き物を大切にする 心情の育成	・カブトムシの飼育・観察	・3年生児童の飼育・観察活 動に対する自己評価肯定的意 見80%以上	60%	50%	C	・今年度はカブトムシが激減し たため、それ以外の昆虫の飼 育・観察を行った。 ・夏の暑さによる死滅、管理の 問題、土日に掘り起こして整備 作業があるなどこのままでは継 続が難しいと考える。継続する 方法を考えていく。	A	・P T Aとの連携もあり、小屋 の整備状況も良好で、生物に対 する子供たちの心情育成に大き く貢献している。 ・生き物の大切さや成長過程を 学習できる大変素晴らしい取組 なので、今後も継続してほし い。	C	・カブトムシの生育環境の変化 により、従来通りの飼育活動が 困難になっている。原因につい て調査を継続している。次年度 以降の在り方も含めた検討を 行っている。	B	・西一之江小独自の取組であ り、生命の大切さを学ぶ良い機 会であると思う。PTAと連携し カブトムシ以外でも、できれば 継続する意義は大きいと思う。	・飼育対象の変更も含め て検討（理科部・環境教 育部）
-------------	---	--------------	--	-----	-----	---	---	---	---	---	---	---	--	-----------------------------------